

おわりに

『「主体的・協働的な学び」を实践できる教員の養成 ―アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発―』プロジェクトの期間は6年間である。本報告書は、プロジェクト初年度の活動報告内容をまとめたものである。「はじめに」にもありますが、本プロジェクトの活動は以下の4本柱からなります。

- ①アクティブ・ラーニング授業が実践できる教員養成プログラムの開発
- ②アクティブ・ラーニング授業が実践できる現職教員研修プログラムの開発
- ③アクティブ・ラーニング授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発
- ④アクティブ・ラーニング授業の指導方法・教材の開発、推進・拡充

この4本柱を遂行するにあたり、いちばん困難であったのは「アクティブ・ラーニング」（以下AL）という言葉の定義です。“アクティブ”とは何か？“アクティブ”な授業・学習とは何なのか？学問ごとや教員ごとにその言葉の定義がさまざまであることを感じ、本プロジェクトで最初に実施したのがALについての全学アンケートであった。6割以上の高いアンケート回収率は、教員のALに対する高い関心と多くの教員が本学でAL授業を实践している表われであることがアンケート結果から判明しました。この場をお借りして、回答に協力していただいた方々に感謝いたします。

本プロジェクト初年度の大きな成果として、「本学が目指すAL」の提案が挙げられます。汎用的な文部科学省のALの定義とは一線を画し、教員養成大学独自の視点から眺めたALはプロジェクトの今後の活動を推進していく上で、大きな核となります。

本プロジェクトの活動は、多くの方々の協力に支えられています。学外・学内の多くの先生方にFD講演会・FD集会で講演や発表をしていただきました。今後もプロジェクト推進に多くの方々のご協力が必要となりますので、よろしくお願ひ致します。

プロジェクトメンバー代表
伊東 正人